

②7 天草の離島を「海の道」で繋ぐモビリティ・シェアリング

メンバー

実施者：NPO法人 イーモビネット

連携団体：天草市（御所浦支所）、御所浦アイランド・ツーリズム推進協議会、あまくさ海上タクシー協会、天草市商工会、（有）御所浦タクシー、御所浦物産館しおさい館、御所浦まちづくり協議会

活動目的

天草市の離島、御所浦では、急速な人口減少や基幹産業の停滞などから、買い物や通院など普通の生活には対岸地域との往来が必要不可欠となっているが、対岸地域を結ぶ定期船の時間帯や乗降港の制約、対岸港からの交通アクセスが悪いなど、島民は不便な生活を強いられている。このような課題を解決すべく、チャーター船として活用されてきた海上タクシーを「乗合い」で利用できるサービス並びに、対岸地域の陸上交通サービス（シェアリングカーなど）を情報技術により組み合わせることで、島民や島を往来する人々に対して、安価で持続可能な移送サービスの仕組みを確立する。

対象地域：

熊本県天草市御所浦町

人口：

2,700人※

高齢化率：

46.3%

※H27 年度国勢調査



取り組み内容

キーワード：海上タクシー／乗合い／シェアリング／IT活用／地域資源の活用

- ① 移動のニーズ調査：島民などを対象にした「海上交通アンケート」（20年度第一四半期実施）の結果、夜間や早朝での海上タクシー利用ニーズに対して、予約がとりにくいなどの不満が顕在化。
- ② 乗合イベントの実施：海上タクシーを活用した「ほんど花火大会ツアー」などの乗り合いイベントを数回実施（19年度）。島内の親子連れなど延べ20名程度の参加者に「夜の外出」を楽しんでいただき、好評を得た。

2020年度の活動実績

海上タクシー「夜間のりあい便」実証実験：定期航路が終了した19-20時の時間帯に、ニーズとオペレーション確認のため、乗り合い便を試験運航（2020年8月から2021年3月まで）。運行回数（便数）235回、利用者数447人と、コロナ禍で目標は下回ったものの、利用者から好評を得た。



取り組みが地域に与えた影響

（定量効果）

- ・夜間のりあい便は、島民を中心に110人の利用者があり、利用回数10回以上のリピーター26名でのべ利用者の70%を占めるなど、島民に必要な「生活の足」として定着しつつある。
- ・利用料収入が月平均60千円となり、海上タクシー事業者の収益安定化に寄与している。

（定性効果）

- ・WEBやメディアを通じたプロモーションにより、島内外への海上タクシーの認知度向上に繋がっている。
- ・予約システム（スマホアプリ）の導入により、予約・手配業務（地元の物産館が実施）の業務効率化にも寄与している。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

プロモーション活動では、チラシやWEBでのPR以上に、地域の方々の「口コミ」による効果が大きかった。地方の移動の課題解決のためには、テクノロジーや仕組みを導入するのみならず、地域の巻き込みが重要であることを改めて認識した。

専門家コメント_ローカル交流推進機構

定期便の最終便が夕方には終わる御所浦島において、住民生活における時間制約を大きく変える可能性のある取り組みだと思います。

今後は、利用者や地域、海上タクシー事業者など地域の関係者が、「自分事として」主体的に運営に関わることができる体制構築など、運営が継続できる体制を整えていくこととなります。